

上野幌・青葉地域

小規模校検討委員会ニュース

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会では、上野幌・青葉地域4小学校の学校規模の適正化を進めるうえでの諸課題について検討しております。検討状況については、「検討委員会ニュース」として、随時保護者や地域住民の皆様にお知らせしてまいります。

2016.2.29 第9号

発行：上野幌・青葉地域小規模校検討委員会

第9回検討委員会 について

2月1日（月）午後1時から、上野幌東小学校で第9回の検討委員会を開催しました。

まず事務局から、個別に寄せられた意見の報告がありました。その後、前回の検討委員会の中で発案のあった統合案について、再検討を行いました。

報告事項 個別に寄せられた 意見について

第8回検討委員会以降、電話で3件、メールで2件、手紙で1件の計6件のご意見が事務局に寄せられており、その報告がありました。

●第8回検討委員会の提案通りに決まってしまうのか。

（事務局回答）

検討を進めるための具体案として示されたもので、決定したものではありません。旨を回答しています。

●保護者の意見を十分に反映できていないように感じるので、アンケートを実施してはどうか。

●校舎は青葉小学校でやむを得ないと思うが、サイクリングロードで校区を区切ると、上野幌小学校の児童がバラバラになり、そのような校区の設定は避けるべきである。

●今まで国道を渡って通っている児童がいないから事故が起きていなかっただけで、リスクを考えると国道は渡らせたくない。

●保護者としては地域のこだわりは全くない。子どもに仲良くしなさいとって、地域が仲良く協力できないというのはおかしいのではないか。

（平成28年1月 電話）

●具体的な提案がされて検討が進んだように見えるが、結論が出ないことに対して不安な保護者は多いと思うので、少しでも早く結論が出るようにしてほしい。

●地域性や歴史という観点よりも、実際の児童数や学級数の現状を考えて議論してほしい。

（平成28年1月 電話）

●提案のサイクリングロードで通学区域を分ける案は、地域性を考えてのことだと思うが、子どものことを最優先に考えると、国道で分

けるのが良いのではないか。

- 活用する校舎は、将来的な中学校の統合も考えて、青葉中学校と隣接する上野幌小学校にすべきである。
- 学校統合だけの検討ではなく、跡地活用も併せて検討するべきではないか。
(平成 28 年 1 月 電話)

- 第 8 回検討委員会の提案の理由は何か。今後は、この提案を軸に議論していくのか。
- 地域の方々が自分に都合の良い意見を出しているように思う。最終的に多数意見が採用されることを危惧している。検討中の 4 校に共栄小学校を加えて、検討してみる方法もあるのではないか。

(事務局回答)

これまで長期間に渡る検討や皆様から寄せられたご意見等を踏まえての提案であり、引き続き提案に沿った検討を進めていくこと。共栄小学校については、厚別南 4 丁目付近の児童に対して、統合後の学校と共栄小学校のどちらかを選べるよう配慮すべきとのご意見も出ている旨を回答しています。

- 検討委員会の議論は統合ありきで進んでいる気がする。統合を行うと多くのコストがかかるので、統合以外の道も模索してほしい。
(平成 28 年 1 月 メール)

- 検討の経緯や提案・決定の根拠だけは客観的にわかりやすく示して欲しい。
- 第 8 回検討委員会での提案は非常に唐突である。地区ごとに分けることは理解できるが、なぜ上野幌東小学校なのか理解しにくいいため、地区の中から小学校を最終的に公平に選ぶ方法を説明して欲しい。
- 「上野幌」の名前に思い入れはなく、校名を残す必要は感じていないので、統合を機に校名を一新してもいいのではないか。
- 指定変更区域を設定するのであれば、通学距離も勘案して、厚別南 4、5 丁目は共栄小学校も選択できるようにすべきではないか。
(平成 28 年 1 月 メール)

- 第 8 回検討委員会での提案は児童の多い学校に少ない人数を通わせることで、いじめの原因になる懸念がある。上野幌小学校区の児童の通学距離が長くなり安全が十分確保されないことなどから反対である。
- 青葉小学校と上野幌小学校の組合せで、上野幌小学校の校舎を活用すべき。理由としては青葉中学校と通学路が重なり、通学の安全を確保する手段が増やせること。将来的に上野幌地区の小学校との統合を検討しなければならない時期が来たときに、上野幌小学校が現在の場所に残っていたほうが議論を進めやすい。

- 活用する校舎の検討については、各校舎の良い点や悪い点を出し尽くし、考えられる解決策を模索した上で、子どもへの負担が少なくなるように進めて欲しい。(平成 28 年 1 月 手紙)

これまでの検討経緯について

今回「ニュースの内容がわかりづらい」「これまでの検討の経緯等をわかりやすく示してほしい」とのご意見が寄せられましたので、今までの検討概要を、改めて掲載します。

■国道 274 号を境に 4 校を 2 校に統合するパターン案について



<各校舎を活用した場合の検討>

国道 274 号より北側

- ・青葉小学校への最長通学距離の方が、上野幌小学校への最長通学距離に比べて短い。
- ・青葉小学校の児童数、学級数の方が上野幌小学校の児童数、学級数に比べて多い。
- ・どちらの校舎を活用したとしても、共栄小学校の方が近い地域がある。
- ・青葉小学校には「通級指導教室」、上野幌小学校には「地区センター」が入っており、別途検討をする必要がある。

国道 274 号より南側

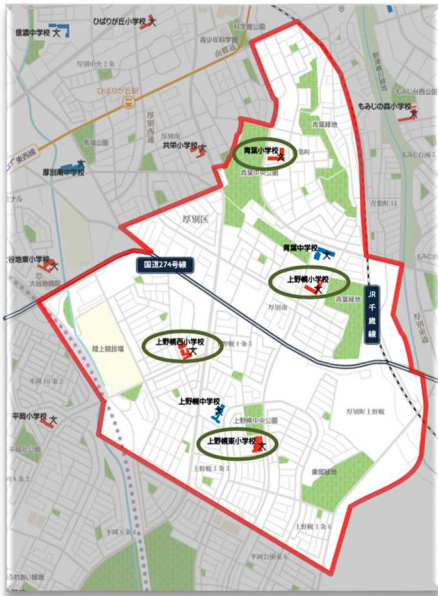
- ・上野幌東小学校への最長通学距離の方が、上野幌西小学校への最長通学距離に比べて短い。(2 km を超える場合、バス通学の検討する必要が生じる)
- ・上野幌東小学校の校舎は、全児童の受け入れが可能だが、上野幌西小学校の校舎は、児童の受け入れのため増築等の工事の検討が必要になる。
- ・上野幌東小学校の校舎や屋内運動場の方が、上野幌西小学校に比べて面積が大きく、築年数も新しい。

<検討結果>

国道 274 号を横断せずにクラス替えが可能な学級数を確保できるが、将来的に再び統合が必要になることも考えられるのではないかと。

⇒4 校を 1 校に統合するパターン案についても検討を行うこととした。

■4校を1校に統合するパターン案について



＜統合パターン案のメリットや課題＞ ○：メリット ●：課題

- 長期間に渡り、多くの児童数、学級数を確保できる。
- 校区が広範囲になり、活用する校舎によっては通学距離が2 kmを超えることが想定されるため、バス通学を検討する必要がある。
- 児童を受け入れるためには校舎の大規模な工事が必要となる場合が多く、工事内容や期間を含めて検討する必要がある。
- 国道 274 号を横断する児童が生じる。

＜検討結果＞

長期的に児童数、学級数を確保できるというメリットがある反面、中学校で別れが生じることや、校区が広範囲になることへの不安等を考えると現時点では尚早なパターンではないか。
⇒町内会の区域に着目し、3校を1校に統合するパターン案についても検討を行うこととした。

■3校を1校に統合するパターン案について（青葉小学校を除く）

青葉小学校の校区



バス通学を検討する必要があるのは、上野幌西小学校を活用した場合のみ（約2.2km）

＜統合パターン案のメリットや課題＞ ○：メリット ●：課題

- 青葉小学校を除いて、教育委員会の考える望ましい規模を（18～24 学級）を確保できる。
- 自治連合会、町内会連合会の区域と校区のずれが少ない。
- 3校を1校に統合した学校と青葉小学校の、児童数および学級数、校区の広さについて大きな差が生じる。
- 国道 274 号を横断する児童が生じる。
- 児童の受け入れのためには、校舎の大規模な工事が必要となる場合が多く、工事の内容や期間を含めて検討する必要がある。
- 小学校区よりも中学校区の方が小さくなる。
- 活用する校舎によっては、通学距離が2 kmを超えることが想定されるため、バス通学を検討する必要がある。

＜検討結果＞

町内会等の区域のずれが少なく、通学安全のための見守りなどの連携がとりやすいというメリットがある反面、青葉小学校が現状と変わらない状況が続き適正な規模が確保できない。
⇒いずれのパターン案でも結論が出ないことから、前回の提案が委員からなされた。

検討事項について

第9回検討委員会では、前回の検討委員会の提案に対し、その経緯や根拠について委員から補足説明があり、引き続き統合案等について再検討を行いました。

■前回の提案内容についての補足説明

提案の経緯

- ・第2回から第7回の検討委員会で様々な統合パターン案を検討し、その中で各校舎の施設や通学等の課題を整理してきたが、何も決まっていない状況である。
- ・上野幌西小学校区と上野幌東小学校区の児童数の減少が、加速度的に進んでいくと想定され、これ以上結論を先伸ばしにできないため、上野幌地区の検討委員で打合せを行い共通認識のもとで提案した。

活用する校舎や校区の線引きについての根拠

- ・これまで検討してきた中で、上野幌地区の3校を1校に統合しても、青葉小学校が適正な学校規模にならないという意見も出されたことから、上野幌地区で活用する校舎を「**上野幌東小学校**」とし、サイクリングロードで校区を分ける（**青葉町9丁目1番・2番、10丁目、16丁目**を青葉小学校に編入する）ことで青葉小学校の児童を増やすことができるのではないかと考えて提案した。
- ・上野幌地区で活用する校舎については、今まで検討してきた児童数や施設の状況、通学距離等を考慮して、上野幌東小学校の活用を提案することとした。

提案についての補足

- ・この提案では、上野幌小学校区の児童が別々の校舎に通うことになってしまうため、**在校生に限り、厚別南4丁目から7丁目の児童は、青葉小学校に指定変更**できるように配慮する。

校名について

- ・上野幌の長い歴史を考えると、上野幌東小学校の校舎を活用することになっても「上野幌小学校」という校名は残すべきである。

委員から寄せられた 主な意見

前回の検討委員会での提案について、個別に寄せられたご意見も含め、各委員から以下のような主なご意見、ご質問がありました。

<統合後に活用する校舎について>

- 上野幌地区の中で1校を活用することは賛成だが、どの校舎を活用するかについては、校舎の大きさや通学距離等を踏まえて引き続き検討するべきではないか。

- 今までの検討を踏まえ、活用する校舎を仮定して検討を進めないと校区や通学安全等の具体的な話ができない。再検討も可能だと思うので、提案の「青葉小学校」と「上野幌東小学校」を活用する校舎として検討を行い、次年度につなげてはどうか。
- 第8回の提案の2校を活用校にすることは賛成だが、本来の適正化の目的を考えた場合、4校を2校にするパターン案が理想だと思っている。

<統合後の校区について>

- 上野幌小学校区をサイクリングロードで分断することは、上野幌小学校区が分断されることになり、児童にとって心理的負担が大きいのではないか。
- 校区をサイクリングロードで分けた際には、子どもや保護者の意思を尊重して、指定変更区域の設定の検討が必要ではないか。
- 提案に基づき検討を深めていくことに異論はないが、他の地域でも校区が連合町内会の区域を跨いでいるケースは多くあり、上野幌・青葉地域の学校規模適正化を考えた時に、サイクリングロードで分けるのがいいのかどうかは疑問である。
- サイクリングロードで校区を区切ったとしても、青葉小学校の校区が少し広がるだけで青葉小学校が適正な規模を確保することが難しいのではないか。
- クラス替えが出来る規模を確保することが前提で、活用する校舎と校区の線引きを検討しなければならない。提案通りでは、青葉小学校が1学年2クラスを確保することは難しくなるため、校区の線引きや指定変更区域の設定について、慎重に検討を行う必要がある。

(事務局回答)

小学校区と連合町内会の区域については、1小学校1連合町内会といったケースの方が少なく、1つの小学校で2～3つの連合町内会に跨っている場合の方が多くあると思います。校区の線引きに関しては、道路や鉄道等の地理的要件を踏まえ、慎重に検討する必要があります。

<統合後の校名について>

- 「上野幌」に長い歴史があることを考えると「上野幌小学校」という校名を残して欲しい気持ちがある。
- 保護者としても「上野幌小学校」の校名を残すことに特に反対はないが、活用する校舎が決まった段階で検討してもいいのではないか。
- 活用する校舎が上野幌東小学校になり、校名や校歌が「上野幌小学校」となると子どもたちに違和感が生じるのではないか。

<その他>

- 地域には地域の思いがあり、保護者には保護者の考えがあるので、お互いに歩み寄らないと、これ以上検討が進まないのではないか。
- 保護者と地域の考え方が「別」というのは根本的におかしいと思う。地域の方は保護者を含めての代表であり、保護者は地域の一部として検討委員会に参加している。様々な意見もあるが、出された提案に沿って検討を進めるべきではないか。
- 検討委員会に寄せられた意見の中にもあったが、保護者の意見を十分に反映できていないと思う。説明会やアンケートなどで、意見の吸い上げをしたほうがいいのではないか。
- 方向性が定まっていない段階で説明会等を開くのではなく、地域や保護者の代表として責任ある立場で委員会に出席していることを自覚して検討していくべき。
- 地域や保護者から寄せられたご意見を、念頭において議論をする必要はあると思うが、地域や保護者を代表している我々が方向性を決めていかなければならないのではないか。方向性が見えない中で説明会等を行うことは、混乱に拍車を掛ける結果となることが懸念される。

(事務局回答)

事務局としては、まずこの検討委員会の中でまとめていただいた内容を、地域や保護者の方々に対してご説明する機会を設けたいと考えております。

次回以降の検討についての確認事項

次回以降の検討委員会では、以下の確認事項を踏まえ、検討を継続することになりました。

<統合後に活用する校舎について>

- ・活用する校舎について、施設の状況や通学距離、児童数等の観点から引き続き検討を行い、客観的な根拠に基づき検討委員会の中で方向性を示していく。

<統合後の校区について>

- ・サイクリングロードを境とする校区の線引きは、上野幌小学校区の児童が分断されることや、青葉小学校が適正な規模を確保できない懸念があるため、指定変更区域の設定と併せるなど慎重に検討していく。

<統合後の校名について>

- ・活用する校舎の方向性が決まってから、「上野幌小学校」の名前を引き継ぐことによる児童や地域への影響等を具体的に検討していく。

第10回の検討委員会について

第10回の検討委員会は、3月中旬の開催を予定しており、今回話合われた内容を基に、引き続き検討を行います。

ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せ下さい

上野幌・青葉地域 小規模校検討委員会 事務局

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）
〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル
TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837
E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載予定です。
<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>